Japanese association of educational psychology

発　達　D-3

第二言語習得における成熟的制約
－第二言語としての英語習得の過程－

内　田　伸　子　（お茶の水女子大学）

【問題】従来幼い子どもほど、言語習得が容易であり、何歳で第二言語に曝されるかという成熟の要因が大きいと言われてきた(e.g. Johnson & Newport 1989)。**(1)第二言語獲得は子どもにとってたやすいのか？(2)言語のどの側面の習得に年齢の要因が効くのか**の問題について明らかにするため、ｶﾘﾌｫﾙﾆｱ州在住の英語を第二言語とする幼児・児童を対象に「言語産出」の諸側面から検討する。

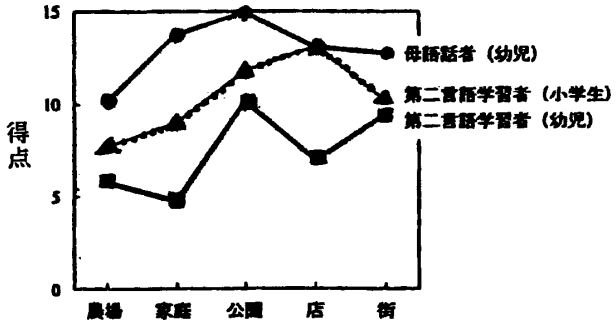
【方法】(1)語彙産出能力;獲得語彙の性質や量について調べた。●**対象者**;①英語母語話者、②第二言語学習者(**第二幼児**)10名(韓国語4名,中国語3名,日本語2名,ファルシ語１名)、③第二言語学習者(**第二小学生**)8名(日本人)の3群。●**材料**；農場、店、公園、街、家の５領域の語彙テスト。●**手続き**；五領域の情景を描いた場面を理解させた後各語彙を命名させる。●**結果**；第二幼児は正答数が少なく低熟知性・会話経験の少ない項目は成績が低い(**図1**)。第二幼児の反応の100%、第二小学生の反応の50%が複数形<-s, -es>が脱落した(**図2**)。

(2)数（単数・複数）に対する習慣的注意に及ぼす第一言語の影響；単数・複数形への敏感性が低いのはそれらを区別しない母語の影響を受けるのかどうかと検討した。●**被験者**；(1)に準ずる。●**材料**;10種の動物(1～5匹)が描かれた絵カード。●**手続き**；10項目をﾗﾝﾀﾞﾑに提示した後､ﾀｰｹﾞｯﾄを含む３枚から再認を求める。●**結果**；英語で数えさせた場合は母語で数えさせた場合に比べ再認記憶の成績は有意に低くなる(**図3**)。これは数えることにﾘｿｰｽがくわれたことを示唆しており、数への敏感性は母語文法の影響を受けないと思われる。

(3)ディスコースの産出能力

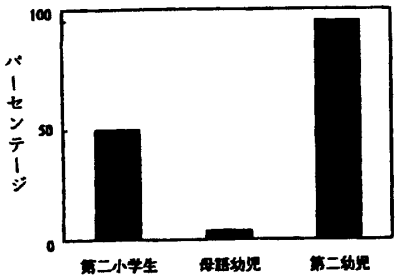
●**被験者**；(1)に準ずる。●**材料**；Mayer **"Frog, where are you?"** の絵本。●**手続き**；絵本を理解させたあと口頭で物語を作らせﾌﾟﾛﾄｺﾙを母語話者２名に評定をしてもらった。●**結果**；第二幼児で物語が語れたのは１名のみだったので小学生と母語幼児のﾃﾞｰﾀを比較した。発音は母語話者並であるが、文法は時間関係を示す接続語を除き、いずれも母語話者より有意に劣り(表1)､文章構造を構成することに困難があることが見いだされた。

【結論】第二言語の産出においては母語文法の干渉を受けること、幼児段階では文章を構成することは極めて困難であること、読み書きや作文の授業を受けている児童であっても、母語幼児の文法の水準にならないことが見いだされた。以上のことから、５歳半までに移住した子どもたちが、第二言語の入力に曝されるだけで第二言語を習得するのは難しいことが示唆された。



《有意水準》　農場：母語話者＞第二小学生＝第二幼児（以下これに準ずる）
家庭：N＞L＞S　公園：N＞L＞S　店：N＝L，N＞S
街：N＞L＝S　P＜.05

＜図１＞



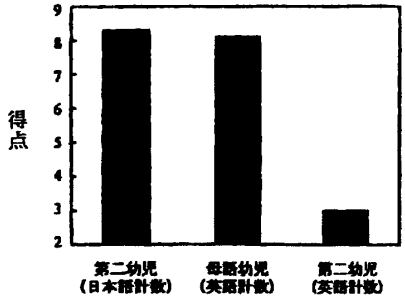
《有意水準》S＞L＞＞N，　＞＞：P＜.01，　＞：P＜.05

＜図２＞複数のマーカー（-s,-es）の脱落反応の割合

文法項目（例）	母語話者	第二言語学習者	有意差
接続詞			
因果関係（so, because）	12.8	33.8	p<.05
時間関係（and, then）	10.3	10.8	n.s.*
時制	16.6	52.3	p<.05
複数形（-s, -es など）	8.3	53.8	p<.01
限定詞（a, this, his, many など）	18.5	68.3	p<.05
代名詞（he, they など）	15.5	48.9	p<.05
動動詞（can, will, may など）	9.7	51.9	p<.01
動詞（目的語が二つ必要など）	7.2	34.6	p<.05

*この項目のみ、第二言語話者は母語話者と同程度の誤りを示した。

＜表１＞産出した物語の全文あたりの文法の誤り（%）



《有意水準》J＝N＞S，　P＜.01

＜図３＞数の再認テストの成績

NII-Electronic Library Service